

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                        |    |        |    |
|----------------|------------------------|----|--------|----|
| ○事業所名          | 高砂市立高砂児童学園             |    |        |    |
| ○保護者評価実施期間     | 令和6年11月8日 ～ 令和6年11月15日 |    |        |    |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                 | 23 | (回答者数) | 23 |
| ○従業者評価実施期間     | 令和6年12月2日 ～ 令和7年1月6日   |    |        |    |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                 | 15 | (回答者数) | 15 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年1月15日              |    |        |    |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること                                                 | 工夫していることや意識的に行っている取組等                                                                                                                                                 | さらに充実を図るための取組等                                                                                                       |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 月曜日から金曜日の週5日、毎日学園に通うことで、身辺面の確立につながりやすい。また、専門職（OT/ST/PT/心理士）なども配置しており、集団療育及び個別療育を受けることができる。 | 毎日繰り返し行う身の回りのことについては、ひとつずつ丁寧に繰り返し行っている。<br>専門職の指導については、専門職と情報共有を行い、個々に応じた支援を検討し実践するようにしている。療育については、こども達の様子を写真や指導者の聞き取りを元に報告書を作成し、保護者に配布を行っている。必要な時には、保護者にも参加してもらっている。 | こども達が毎日安心して、そして楽しんで登園できるように、日々の活動内容についても職員同士で話し合いながら進めていく。また研修なども積極的に受講しながら、保育・療育の質を高めていくようにする。また、オープンスクールなどで実践公開する。 |
| 2 | 地域のこども園・保育園・幼稚園と定期的に交流保育を行っており、同年代の友達と触れ合う機会を設けている。児童学園を卒園して、新たな集団生活に入るための経験ができています。       | 高砂市内の園と定期的に交流保育を行い、いつもと違う遊具を使いながら体を存分に動かしたり、ルールのある遊びにも参加させてもらうことで様々な経験をする機会をつくり、市内の公立・民間園と連携し、1回の経験を大切に取り組んでいる。                                                       | 初めての環境が苦手な子や大勢の人数が苦手な子もいるので、こども達の無理のないように少しずつ学園以外の環境にもなれるようにし、その中で楽しいことを見つけていく。                                      |
| 3 | 就園前施設・小学校・支援学校・事業所・行政などとの連携体制がとれている。                                                       | 保護者に承諾を得た上で、卒園後の進路先と情報共有を行いながら支援を継続するようにしている。また、他園から児童学園に入園してくる時にも情報共有を行いながらスムーズに移行できるようにしている。                                                                        | 関係機関との連携を引き続き行いながらすすめていく。<br>学園主催での研修を企画・運営をしている。                                                                    |

|   | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること                                   | 事業所として考えている課題の要因等                                                                         | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                 |
|---|------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 1 | 建物の老朽化。（昭和40年開園）                                                             | これまで手入れやメンテナンスを繰り返してきたが、築60年を経てメンテナンスだけでは補いきれなくなっている。公立施設の為、建て替え検討に至るまでに調査・手続きなど大変時間がかかる。 | 市として施設の建て替えを検討し、安心・安全に過ごせるようにしていく。                   |
| 2 | 最低限の療育室はあるが、余裕のある療育室はないので、天気によって、活動場所が制限されることがある。                            | 古い建物の為、昔の利用状況に応じた設備・環境になっており、現在の活動内容に応じた設備になっていない。                                        | ホールなどの部屋をクラスごとに利用できるように、時間を組み合わせていながら使用できるように調整している。 |
| 3 | 自然に囲まれた緑豊かな場所にセンターがあるが、公共交通手段がない。（こどもは送迎バスでの通園になるが、保護者が自家用車または自転車でしか来所できない。） | 自家用車で来園できない方が、来所する手段が難しい。                                                                 | 会議など、別の場所で開催可能な場合は、参加者ができるだけ参加しやすいようにしている。           |